

大長崎都市圏総合開発地域

土地分類基本調査

長 崎

5 万 分 の 1

国 土 調 査

長 崎 県

1 9 7 3

長崎県土地対策室

序 文

本県は、九州の北西部に位置し、未だ汚されていない美しい自然と、歴史と伝統によって個性的に形成されてきた豊かな人文的資産があります。

エネルギー問題を軸としてゆれ動く国際情勢のもとで、これまでの高度経済成長に伴う過密公害等をはじめとする諸々の歪みが厳しく問われ、わが国経済社会の将来像の大きな転換が要求されている今日であります。本県は、恵まれた環境を保全しつつ、その特性を生かし活用することによって、将来の新しい社会に対応し、均衡ある県勢発展を目指し得る豊かな可能性を有していると確信いたしております。この可能性のうえに立って、本県では、現在、生活圏を基盤にすべての県民が都市的利便を享受し、豊かな環境のもとで快適な生活を営み得るよう中核都市を中心に、各地域の特性に応じて、都市機能の分化・産業の適正配置をすすめて一体化を図る「都市圏構想」の検討を進めているところであります。

本調査は、この都市圏構想の具体化に必要な諸調査のうち、最も基礎的なものとして、「地形」「表層地質」「土しょう」を主要素とする土地条件を科学的・総合的に調査することを目的として、国土調査法に基づく開発地域土地分類基本調査として、経済企画庁の国土調査費補助金を得て実施することになったのであります。

昭和48年度は、その初年度として「肥前小浜」「長崎」「大村」の三図幅を調査いたしましたが、昭和49年度以降も逐次地域ごとに実施していく計画であります。

この調査の成果を行政に利用されることは勿論、広く関係者に活用されることを希望いたします。

最後に、この調査の実施に当たり、温いご指導・ご助言を賜わった経済企画庁国土調査課の方々、炎天の中で調査にたずさわった調査機関の方々、資料収集、調査等に積極的にご協力いただいた関係市町村をはじめ関係者各位に対しまして心から謝意を表する次第であります。

昭和49年3月

長崎県企画部長

ま え が き

1. 本調査は、長崎県開発地域土地分類基本調査作業規程に基づき、長崎県企画部（企画課）農林部（総合農林試験場）・長崎大学教育学部の諸機関により実施したもので、調査の事業主体は長崎県である。
2. 本調査の成果は、国土調査法施行令第2条第1項4号の2の規定による土地分類基本調査図および土地分類基本調査簿である。
3. 調査基図は、測量法第27条第2項の規定により建設大臣が刊行した5万分の1地形図を使用した。
4. 調査の実施・成果作成の関係機関及び関係担当者は次のとおりである。

指 導	経済企画庁総合開発局国土調査課		
総 括	長崎県企画部企画課	課 長	木 戸 忠 之
		土地対策室長	松 本 重 寿
		企画調査員	中 島 昌 訓
		主 査	田 浦 仁 也
		主 事	永 石 征 彦
		主 事	上 原 晃
		主 事	南 里 雅 彦
地形調査	長崎大学教育学部	教 授	石 井 泰 義
開発関連調査			
	（傾斜区分，水系・谷密度，開発規制）		
表層地質調査	長崎大学教育学部	教 授	鎌 田 泰 彦
開発関連調査			
	（防 災）		

土 壤 調 査

長 崎 県 総 合 農 林 試 験 場

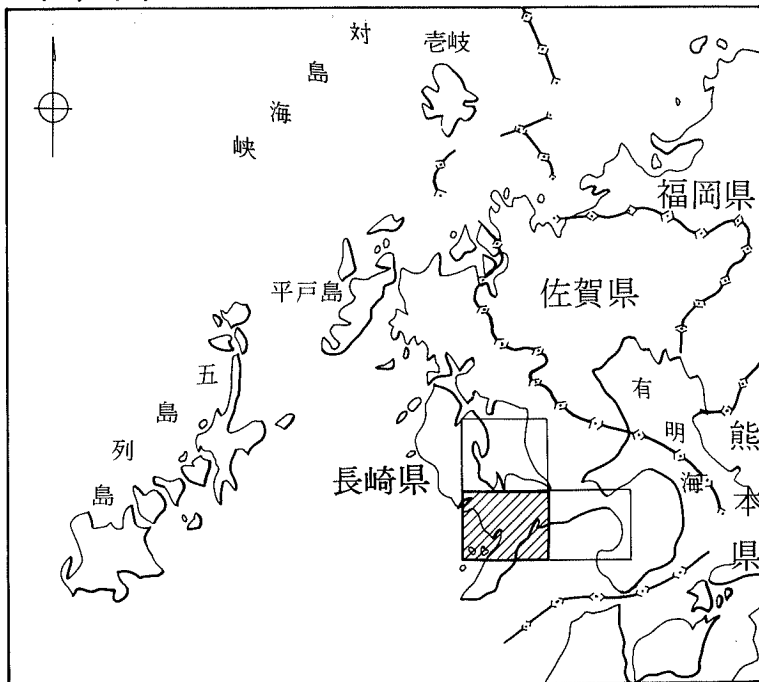
科 長 小 野 末 太

技 師 松 尾 俊 彦

協 力 機 関

長 崎 県 関 係 各 課 お よ び 関 係 出 先 機 関 な ら び に 図 幅 内 関 係 市 町 村

位置図



目 次

序 文

まえがき

総 論

- I. 位置および行政区画…………… 1
 - 1. 位 置
 - 2. 行政区画
- II. 地域の特性…………… 2
 - 1. 自然条件
 - 2. 社会経済条件
- III. 主要産業の概要…………… 8
- IV. 開発の現状と方向…………… 10

各 論

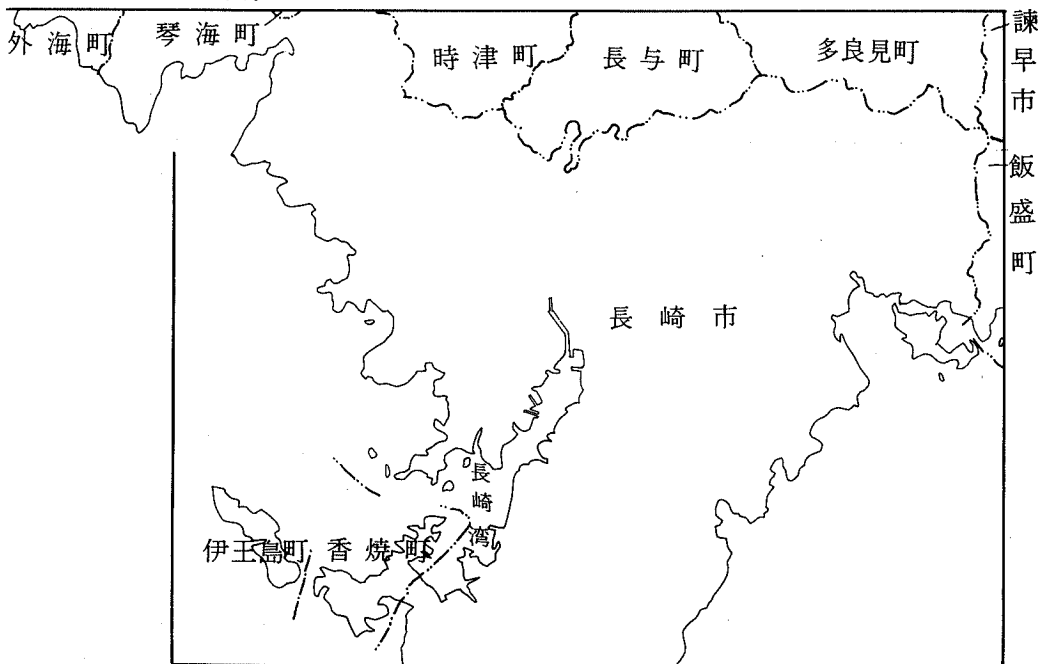
- I. 地形分類図…………… 13
- II. 表層地質図…………… 17
- III. 土壌図…………… 23
- IV. 開発関連図…………… 27

總論

I 位置および行政区画

1. 位置：「長崎」図葉は長崎県の南部に位置し、経緯度は東経 $129^{\circ}42' \sim 130^{\circ}00'$ 、北緯 $32^{\circ}40' \sim 32^{\circ}50'$ の範囲である。図葉内の陸地面積は 249.38 Km^2 である。
2. 行政区画：本図葉の行政区画は長崎市、諫早市、西彼杵郡香焼町、伊王島町、多良見町、長与町、時津町、琴海町、外海町および北高来郡飯盛町の2市8町からなっており、図葉内地域の面積の4分の3を長崎市が占めている。図葉内の市町村面積は第1表のとおりである。なお、琴海町は図葉内に含まれる面積が狭小であるので特記事項以外は以下の記述ではふれない。

行政区画



第 1 表 図葉内の市町村別面積

区分 市町村名	図葉内面積		市町村全面積 B (km ²)	A/B (%)
	実数 A (km ²)	構成 (%)		
長崎市	189.27	75.8	208.18	90.9
諫早市	2.15	0.9	146.79	1.5
西彼杵郡香焼町	3.98	1.6	3.98	100.0
伊王島町	1.96	0.8	1.96	100.0
多良見町	15.90	6.4	37.60	42.3
長与町	18.93	7.6	28.46	66.5
時津町	10.90	4.4	20.82	52.4
琴海町	0.19	0.1	68.31	0.3
外海町	2.35	0.9	46.70	5.0
北高来郡飯盛町	3.75	1.5	24.95	15.0
計	249.38	100.0	587.75	42.4

資料：建設省国土地理院調べ（47.1.0.1 現在）。ただし図葉内面積については県企画課調べ。

Ⅱ 地域の特 性

1. 自然条件

ア. 気象条件

この地域は、九州型気候区のうち西海型気候区に属する気候であり、山間地を除き年平均気温 16 ないし 17℃、1 月の平均気温は 6℃以上、または年間降水量 2000 mm を超えるところが多い。このように温暖多雨という点で最も九州的な気候といえることができよう。沿岸部では、特に温暖であるが、これは明らかに対馬暖流の影響である。また、海岸線が複雑で、その延長が長く、それだけ海の影響を受けることも多く、そのため、冬は暖かく、夏は比較的涼しいといった海洋性の気候に恵まれている。

資料：九州の気候（福岡管区気象台）

第 2 表 月間平均最高気温

1°C

観測所 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均
長 崎	12.7	10.7	14.4	18.5	22.1	25.4	30.2	30.3	26.8	22.3	17.2	12.5	20.3
雪 浦	12.8	10.4	14.3	18.5	22.6	25.8	30.0	30.3	27.2	22.5	17.5	12.9	20.4
西 諫 早	12.1	10.2	14.7	19.3	23.1	26.0	30.3	30.9	27.0	22.5	17.1	12.5	20.5

(注) 昭和 47 年 1 月～12 月

第 3 表 月間平均最低気温

1°C

観測所 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均
長 崎	5.8	5.1	6.9	11.1	15.0	18.6	24.4	23.9	19.9	14.7	10.3	5.7	13.5
雪 浦	4.3	3.4	4.8	9.6	14.1	18.0	23.7	23.0	19.1	13.7	9.8	5.0	12.4
西 諫 早	1.8	2.6	3.6	8.3	12.9	16.9	23.3	22.0	17.2	10.9	6.9	1.6	10.7

(注) 昭和 47 年 1 月～12 月

第 4 表 月間降水量

1 mm

観測所 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均
長 崎	246	131	120	227	165	556	346	226	216	146	131	53	2563
雪 浦	212	139	127	237	192	459	354	216	141	98	111	81	2367
西 諫 早	254	129	198	287	228	553	673	201	221	163	173	82	3162

(注) 昭和 47 年 1 月～12 月 資料：長崎県気象月報（長崎海洋気象台）

第 5 表 観測所の位置

観測所名	所在地	東 経	北 緯	海 抜	摘 要
長 崎	長崎市南山手町 5	129°52'.2	32°43'.9	27 ^m	図葉内中央
雪 浦	西彼杵郡大瀬戸町雪浦中学校	129°48'.0	32°55'.0	25	図葉外北側
西 諫 早	諫早市員津町	130°01'.0	32°50'.0	10	図葉外東側

イ. 土地利用の現況

関係市町村の平均耕地率は、19.7%であるが、本図葉内の耕地の殆んどが傾斜地にあり、また、長崎市とその周辺の都市近郊町であるため、都市化の影響を強く受け、農業労働力の減少と耕地の改変が進行している。しかしながら反面市場条件の優位性をいかした収益性の高い果樹、野菜、花卉花木等の供給により、今後とも都市近郊農業地域としての役割を果たすことが可能であろう。

林業については、平均森林率が52.9%と高いが、起伏に富んだ変化の著しい地形的条件等のため、木材需用としての森林機能は大きく望めない。しかし、域内市町村の都市緑地やレクリエーションの場として、また、水資源涵養としての森林機能は、快適な都市生活を維持する上にきわめて重要な役割を果たしている。

長崎市の市街地は、長崎港を囲繞する200~300メートル級の山々を這いのぼるように発達し、狭く曲りくねった坂道が迷路のように入り組んでいる。このため、市内の交通は各所で輻輳し、交通渋滞が生じている。また、工業用地についても移転分散が進みつつあり、住宅用地についても時津町、長与町等周辺市町へのスプロールの拡大が進んでいる。さらに長崎市内の山腹斜面に階段状に建設された住宅地は、水道、下水道、道路の公共施設の整備に困難をきたしている。

第 6 表 土地利用の現況

(単位: ha, %)

市町村	総土地面積(A)	耕地面積(B)				耕地率 (B/A)	森林面積 (C)	森林率 (C/A)
		田	畑	樹園地	計			
長崎市	20,818	650	1,030	1,212	2,892	13.9	13,056	62.7
諫早市	14,679	2,207	1,124	539	3,870	26.4	6,498	44.3
香焼町	398	—	16	2	18	4.5	73	18.3
伊王島町	196	—	25	1	26	13.3	54	27.6
多良見町	3,760	207	52	707	966	25.7	1,953	51.9
長与町	2,846	193	28	565	786	27.6	1,249	43.9
時津町	2,082	201	53	297	551	26.5	860	41.3
琴海町	6,831	404	176	590	1,170	17.1	3,744	54.8
外海町	4,670	130	218	76	424	9.1	2,619	56.1
飯盛町	2,495	308	514	62	884	35.4	985	39.5
計	58,775	4,300	3,236	4,051	11,587	19.7	31,091	52.9
比率	100.0	7.3	5.5	6.9	19.7	—	52.9	—

資料：長崎県統計年鑑（48年），長崎県の林業（48年）

2. 社会経済条件

ア. 交通

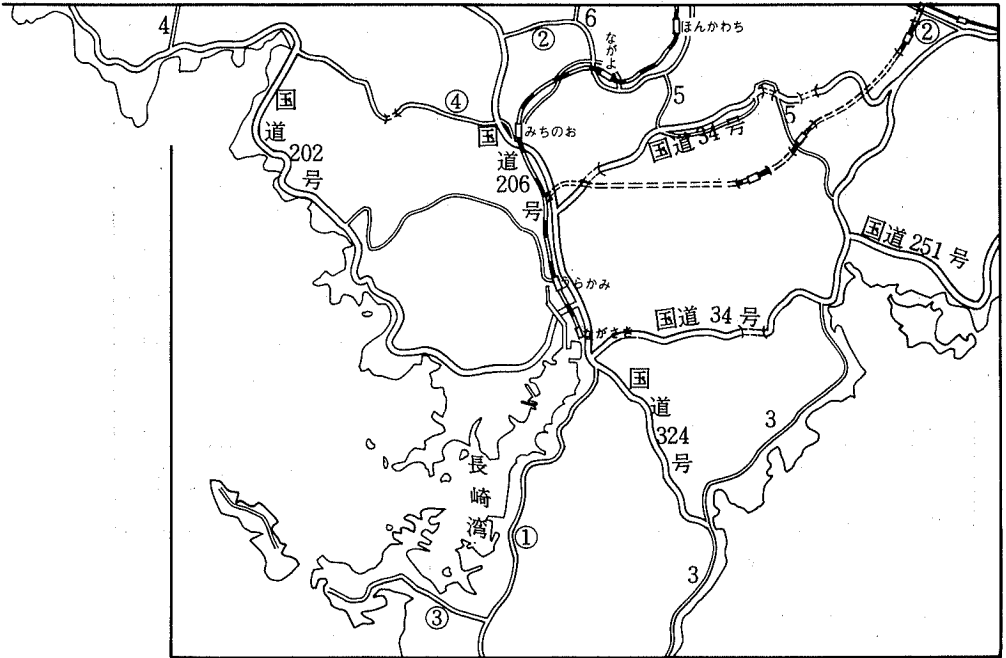
本図葉地域は、国道34号、57号、202号、206号、251号、324号および4本の主要地方道と県道等により道路網が形成されているが、海岸線が長く、山が海にせまっている特異な地勢であるため、交通網の整備には、困難を窮めている。特に、長崎駅前の12時間交通量は、65,073台（昭和46年）と九州最高の交通量となっている。このため現在、九州横断自動車道の導入に伴う市内交通アクセスを含めた総合的な検討が進められている。

鉄道については、国鉄長崎本線が走っており、従来長与経由だけであったが、昭和47年10月に喜々津・浦上間に九州第1位の長さの長崎ずい道6173mを持つ短絡線（市布経由）が開通し、6.7kmの短縮によって特急で11分、普通で15分スピードアップされた。

さらに、昭和50年3月末までには、長崎本線の電化が完成される予定であり、時間の短縮

と貨物輸送の増強が可能となり、また、昭和54年には長崎新幹線の完成が見込まれている。

道路 鉄道 位置図



1. 道路

国道

路線名	起点	終点	主要な経過地
34号線	鳥栖市	長崎市	佐賀市, 武雄市, 大村市, 諫早市
34号線バイパス			
57号線	大分市	長崎市	大分県犬飼町, 熊本市, 三角町, 島原市, 小浜町, 諫早市
202号線	福岡市	長崎市	佐賀県浜玉町, 唐津市, 伊万里市, 有田町
206号線	長崎市	佐世保市	時津町

251号線 長崎市 諫早市 飯盛町, 愛野町, 小浜町, 口ノ津町, 島原市, 国見町

324号線 長崎市 熊本県宇土郡三角町 熊本県 北町, 本渡市

主要地方道

長崎野母港線(①) 諫早時津線(②) 長崎畝刈線(③) 香焼江川線(④)

一般県道

道ノ尾停車場線(1) 長崎式見港線(2) 三和東長崎線(3) 三重港村松線(4) 東長崎長与停車場線(5) 大草長崎線(6) 伊王島線(7)

2. 鉄 道

路線名	起 点	終 点	主要な経過地
長崎本線	鳥 栖	長 崎	佐賀, 肥前山口, 肥前鹿島 諫早
長崎本線(長与経由)	喜々津	浦 上	長与

イ. 人 口

図葉内関係市町村は、1km² 当り平均930.7人(県平均383.4人/km²)の県内で最も人口密度の高い地域であり、また、人口都市集中化が進行している地域である。昭和35年から45年までの10年間の人口増加率は7.1%であり、昭和40年から45年までの5年間では、長崎市のベッドタウン化している時津町、長与町の伸びが著しい。なお、香焼町、伊王島町は、石炭産業の衰退により人口減少を示した。このうち香焼町は、第1次外港計画により本土と陸続きとなり、造船産業等の進出の結果、人口増加の傾向をたどっている。

第 7 表 関係市町村の人口推移

(単位：人，%)

年次 市町村名	35年	40年	45年	45/35	45/40	人口密度(45年) (1 Km ² あたり)
長崎市	387,147	410,925	425,996	110.0	103.7	2,028.4
諫早市	64,506	63,886	65,261	101.2	102.2	44.46
香焼町	8,936	4,598	4,774	53.4	103.8	1,348.6
伊王島町	7,266	6,822	6,348	87.4	93.1	3,238.8
多良見町	9,324	8,846	8,886	95.3	100.5	236.3
長与町	11,500	12,078	14,008	121.8	116.0	492.2
時津町	8,768	9,287	12,493	105.9	134.5	602.9
外海町	12,600	13,828	13,579	107.8	98.2	290.8
飯盛町	9,489	8,848	8,182	86.3	92.5	327.9
計	510,768	529,831	547,034	107.1	103.2	930.7

資料：国勢調査

Ⅲ 主要産業の概要

本図案内の関係市町村の就業人口は、昭和45年241,409人で、昭和40年219,728人に比し9.9%と増加を示している。第8表の産業別就業人口の構成をみると、第1次産業13.4%、第2次産業28.7%、第3次産業57.9%となっており、県平均よりかなり進んだ構造を示している。また、県全体に占める割合は就業人口総数の34.7%と相当のウェイトを占め、しかも第2次産業就業者は43.8%、なかでも製造業就業者は48.6%とはほぼ半数に及び、第3次産業就業者は41.5%となっている。

第10表の主要産業の状況によると、製造業出荷額等の県全体に占める割合は65.2%、うち長崎市52.9%であり、また、商業年間販売額59.3%と他地域を圧倒している。なお、製造業のウェイトが高いのは造船業の寄与率が高いためである。

また、総漁獲高についても県全体の40.5%を占めているが、これは沖合遠洋漁業の基地が長崎市にあるためである。

第 8 表 産業別就業人口の構成（45年）

（単位：人，％）

産業別 市町村名	総 数	第 一 次 産 業				第 二 次 産 業				第三次 産 業
		計	農 業	林 業 狩猟業	漁 業	計	鉱 業	建設業	製造業	
長 崎 市	182141	14595	8781	68	5745	53372	191	15032	38149	114175
諫 早 市	29779	8857	8200	14	643	5299	62	2007	3230	15623
香 焼 町	1925	47	15	—	32	1041	8	403	630	827
伊王島町	2186	102	72	—	30	1610	1481	51	78	474
多良見町	4464	1989	1932	16	41	1044	1	315	728	1431
長 与 町	6174	1680	1620	1	59	1917	6	490	1421	2577
時 津 町	5723	1205	1111	3	91	2136	14	747	1375	2382
外 海 町	5268	1593	1461	25	107	2556	2178	252	126	1119
飯 盛 町	3749	2248	1881	2	365	460	22	257	181	1041
計	241409	32315	25073	129	7113	69435	3963	19554	45918	139659
比 率	(1000)	(134)	(104)	(01)	(29)	(287)	(16)	(81)	(190)	(579)
県全体に占める割合	34.7	16.2	16.1	11.0	16.6	43.8	30.6	38.2	48.6	41.5

第 9 表 主 要 産 業

	農 業 (46年)			漁 業 (46年)	
	農家数	うち専業	農業粗生産額	経営体数	総漁獲高
	戸	戸	百万円	体	百万円
長 崎 市	6,249	1,252	3,822	831	25,956
諫 早 市	4,769	836	4,044	205	284
香 焼 町	127	18	11	36	20
伊 王 島 町	174	36	37	120	26
多 良 見 町	1,040	245	1,119	79	26
長 与 町	866	182	891	34	11
時 津 町	726	121	557	56	14
外 海 町	1,060	269	571	85	50
飯 盛 町	1,249	288	1,109	169	149
計	16,260	3,247	12,161	1,615	26,536
県全体に占める割合	17.2	17.2	17.7	8.9	40.5

資料：長崎県勢要覧（48年版）

Ⅲ 開発の現状と方向

この地域の中心である長崎市は、元龜2年（1571年）貿易港としての歩みを開始して以来、着々と発展をとげ、特に、徳川幕府の厳しい鎖国政策の下にあつては、我が国唯一の海外への門戸として、学問・文化の吸収に多大な役割を果たしてきた。明治以降県都として、また造船・水産・商業・観光等の多面的産業を構成する複合都市として発展を続けた。昭和20年8月投下された原子爆弾により長崎市の3分の1は灰塵に帰し、多くの貴重な人命を失ったが、戦後政治・行政・経済・文化・教育等のあらゆる面で本県の中核機能を果たす都市に発展してきた。

しかしながら、現在の長崎市市街地は、地形的制約のため土地利用に限度があり、工業・商業適地の不足、あるいは周辺市町村への住居地域のスプロール化、交通問題等過密の弊害が生じ、歴史と文化の街として誇るにふさわしい都市としての機能が限界に達しつつある。

の 状 況

製 造 業 (46年)			商 業 (47年)	
事業所	従業員	製造品出荷等	商店数	年間販売額
所	人	百万円	店	百万円
1,099	32,875	20,367.5	7,295	40,259.0
212	3,698	13,341	1,185	41,160
8	1,792	17,395	77	602
2	ㄵ	ㄵ	50	603
9	666	4,127	101	3,443
13	241	471	134	2,007
57	2,153	11,633	181	2,785
8	85	179	115	1,444
19	68	71	101	1,047
1,427	41,578+ㄵ	250,892+ㄵ	9,239	455,681
26.5	47.1	65.2	34.7	59.3

従って、九州横断自動車道、長崎新幹線の建設、長崎本線の電化など基幹交通ネットワークの導入を契機として、より広域の高次元の観点から都市機能の分散、再配置の必要性が高まっている。

すでに、市街地内のいくつかの大規模な工場が長崎外港埋立地や周辺市町村に新工場を建設、移転したのをはじめ、長崎漁港・流通施設などの都市機能の分散が計画・推進されているが、個別的分散では、都市機能の回復は不十分である。

そこで、本地域をはじめ大村・諫早を一带として含めた大長崎都市圏を形成し、現在長崎市が有している多様な都市機能のうち、移転可能な一部の都市機能を都市圏内の適地に分散・再配置し、都市圏全体の有機性を高めるとともに、併せて長崎市都市再開発のためのインパクトとするという政策の検討を進めている。

(長崎県企画課)

各論

I. 地形分類図

1. 地形の概要

本図幅中央部の長崎火山地は、浦上低地をはさんで東西2つのブロックにわかれ、さらに東部は帆場岳火山地・彦山火山地に、西部は岩屋山火山地・稻佐山火山地に細分される。この火山地の北に隣接する大村湾南岸火山地は、時津低地をはさむ琴ノ尾火山地と鳴鼓岳火山地で、長崎火山地の西方には八郎川から喜々津川につづく地溝状低地を隔てて八天岳火山地がある。長崎火山地の南は、結晶片岩から構成された八郎岳山地に接し、長崎港外には、第三紀層からなる丘陵性の島嶼群がある。さらに長崎火山地の西北は、結晶片岩からなる西彼杵山地に接している。

地形の性状ならびにその分布を説明するため、次の地形区を設定した。

I. 山地・山麓

- | | | |
|-------|-----------|-----------------|
| I a | 長崎火山地 | |
| I a' | 同上山麓地 | I a-1 帆場岳大起伏火山地 |
| I a-2 | 帆場岳中起伏火山地 | I a-3 帆場岳小起伏火山地 |
| I a-4 | 彦山中起伏火山地 | I a-5 彦山小起伏火山地 |
| I a-6 | 岩屋山中起伏火山地 | I a-7 岩屋山小起伏火山地 |
| I a-8 | 稻佐山中起伏火山地 | I a-9 稻佐山小起伏火山地 |
| | | |
| I b | 大村湾南岸火山地 | |
| I b-1 | 琴ノ尾中起伏火山地 | I b-2 琴ノ尾小起伏火山地 |
| I b-3 | 鳴鼓岳中起伏火山地 | I b-4 鳴鼓岳小起伏火山地 |
| | | |
| I c | 八天岳火山地 | |
| I c-1 | 八天岳中起伏火山地 | I c-2 平木場小起伏火山地 |
| | | |
| I d | 八郎岳山地 | |
| I d' | 同上山麓地 | I d-1 八郎岳大起伏山地 |
| I d-2 | 八郎岳中起伏山地 | I d-3 八郎岳小起伏山地 |

Ⅰ e 西彼杵山地

Ⅰ e - 1 西彼杵中起伏山地

Ⅰ e - 2 西彼杵小起伏山地

Ⅱ．丘陵地

Ⅱ a 浦上・時津丘陵地

Ⅱ b 矢上・喜々津丘陵地

Ⅱ c 香焼・伊王島丘陵地（神岳を含む）

Ⅲ．低地

Ⅲ a 浦上低地

Ⅲ b 長崎低地

Ⅲ c 時津低地

Ⅲ c - 1 長与川低地

Ⅲ c - 2 時津川低地

Ⅲ d 香焼低地

Ⅲ d - 1 鹿尾川谷底平野

Ⅲ d - 2 江川川谷底平野

Ⅲ d - 3 香焼人工改変地

Ⅲ e 喜々津・矢上低地

Ⅲ e - 1 八郎川谷底平野

Ⅲ e - 2 戸石川谷底平野

Ⅲ e - 3 日見川谷底平野

Ⅲ e - 4 本図参照の事

Ⅲ e - 5 喜々津谷底平野

Ⅲ f 外海低地

Ⅲ f - 1 小江川谷底平野

Ⅲ f - 2 式見川谷底平野

Ⅲ f - 3 三重川谷底平野

2. 地形細説

2-1 山地・山麓(Ⅰ)

2-1-1 長崎火山地(Ⅰa)

本図幅の中央部・浦上河谷の東西に、安山岩からなる長崎火山が南北に連なる。

東側では、帆場岳(506.3m)が起伏量400m以上の大起伏山地(Ⅰa-1)を示すがその周辺の天竺山(380m)、金比羅山(366.3m)、烽火山(426m)、津屋岳(302.7m)付近では中起伏山地(Ⅴa-2)をなし、さらにその両側に小起伏山地を伴う。烽火山の北方では小起伏山地が盆地状に介在している。中起伏山地と小起伏山地の境界付近には「滝ノ観音」などの遷移点があり、西山高部水源池や本河内水源池が設けられている。市街地近くではこの境界線を越えて中起伏山地にまで宅地化がすすんでいる。

日見峠以南の彦山(385.6m)、金比羅岳(278m)などの火山地は中起伏山地(Ⅰa-4)で、矢岳では溶岩台地、唐八景では、8°~15°の緩傾斜面を有し、標高260mまで宅地化がすすみ、周辺の小起伏山地ならびに山麓地は家屋の密集地帯となっている。また茂木周辺の小起伏山地は、ミカン・枇杷の果樹園地帯をなしている。

浦上低地西北の岩屋山(475.2m)、舞岳(252m)では中起伏量の山地(Ⅰa-6)を示し、山地の西部には溶岩台地を有する。東側の小起伏火山地(Ⅰa-7)は宅地化がすすみ、滑石団地や小江原団地がある。西側の小起伏火山地の中には、手熊河谷の周辺に結晶片岩からなる非火山地が局部的に含まれている。

小江川以南の稻佐山(332.3m)は、中起伏火山地(Ⅰa-8)で、西側の標高300mの高度には溶岩台地があり、ゴルフ場に利用されている。東側の小起伏火山地(Ⅰa-9)は標高200mまで宅地化がすすんでいる。大浜・秋月を結ぶ線以南の小起伏火山地(Ⅰa-9)は、東麓に造船所があり、宅地化はすすんでいない。

2-1-2 大村湾南岸火山地(Ⅰb)

猪見岳(363.5m)付近は、琴ノ尾火山地(大村図幅)につづく中起伏火山地(Ⅰb-1)で、その周辺の長与川兩岸の小起伏火山地(Ⅰb-2)には女ノ都団地などの住宅団地がある。

時津西方にあって、滑石峠以北の鳴鼓岳(383.8m)、烏帽子岳(413m)は中起伏火山地(Ⅰb-3)で、その東側の小起伏火山地(Ⅰb-4)には横尾団地がある。

2-1-3 八天岳火山地(Ⅰc)

普賢岳(439m)、船石岳(451m)、松尾岳(380m)および井樋ノ尾岳(406.

8 m)は、「小浜」図幅の八天岳中起伏火山地につづくトロイデ火山群で、「小浜」図幅の平木場小起伏火山地の延長部(Ⅰc-2)を南北に随伴する。

2-1-4 八郎岳山地(Ⅰd)

八郎岳(590.1 m)兜岳(468 m)、悪所岳(506 m)は大起伏量を示す山地で、その周辺の結晶片岩からなる熊ヶ峰(460 m)、戸町岳(472.2 m)、城山(360 m)は中起伏山地(Ⅰd-2)で、この地形面は傾斜 $8^{\circ}\sim 15^{\circ}$ の緩傾斜で、隆起準平原の地貌を呈する。この中起伏山地は、東岸では急傾斜をなして直接海に迫るが、西岸では、第3紀層からなる小起伏山地(Ⅰd-3)で、中起伏山地との境界に遷移点があり、そこに小ヶ倉水源池が設けられている。

2-1-5 西彼杵山地(Ⅰe)

本図幅の西北隅にある矢筈岳(336 m)、飯盛岳(222.2 m)は、「大村」図幅の西彼杵山地につづく結晶片岩からなる中起伏山地(Ⅰe-1)で、山頂部には結晶片岩を貫いて流出した玄武岩の溶岩台地を有する。その西北部は、同じ結晶片岩からなる西彼杵小起伏山地(Ⅰe-2)で、狸岩、鬼岩などの玄武岩台地をのせている。

2-2 丘陵(Ⅱ)

長崎港と大村湾との間にある地溝状低地の北部には、起伏量50~100 mの浦上・時津丘陵地(Ⅱa)があり、浦上水源池や百合野団地・横尾団地・自由ヶ丘団地などの住宅団地が建設されている。

また、橋湾と大村湾を結ぶ矢上・喜々津間の地溝状低地には、第3紀層からなる矢上・喜々津丘陵地(Ⅱb)があり、植木園やゴルフ場に利用されている。橋湾内の牧島は、起伏量50 m以下の丘陵地である。

長崎港外の伊王島・香焼・神ノ島ならびに式見沖合の神楽島は丘陵地(Ⅱc)に属する。

2-3 低地(Ⅲ)

長崎火山地の中央部に位する浦上低地(Ⅲa-1)は、盆地状をなし、周辺に比高10 m内外の岩石段丘が発達している。

帆場岳火山地と彦山火山地の間を刻む中島川沿いの低地(Ⅲa-2)は、両岸に比高10 m内外の岩石段丘を有し、浦上低地との間にあって長崎港に向って舌状にのびる段丘上には、長崎県庁や市役所などが立地する。

大村湾にそそぐ長与川、時津川は狭長な谷底平野と三角州からなる低地(Ⅲb-1, Ⅲb-2)で、後者は大村湾岸に埋立による人工改変地を有し、工場誘致が行われている。

長崎港外の香焼低地は、鹿尾川、江川川の谷底平野（Ⅲc-1, Ⅲc-2）と小ヶ倉、香焼ならびに神ノ島の埋立地（Ⅲc-3）からなる。鹿尾川上流の遷移点には、ダムが設けられ、香焼島は埋立によって人工的陸繋島となり、人工改変地には、三菱造船の100万トンドックや長崎外港の港湾施設が建設されている。

千々石湾と大村湾の間ある地溝状低地には、八郎川、喜々津川が谷底平野（Ⅲd-1, Ⅲd-5）をつくり、河岸には岩石段丘が分布している。千々石湾にそそぐ戸石川、日見川、若葉川は狭小な谷底平野（Ⅲd-2, Ⅲd-3, Ⅲd-4）を形成している。八郎川河口から日見川河口には海面埋立による人工改変地が造成されている。また、網場町には小規模な海岸砂丘がある。

外海（五島灘）にそそぐ小江川、式見川、三重川は短小な谷底平野を形成、小江川は上流地点に、式見川は中流地点に、いずれも新期溶岩流の流出に起因する遷移点がある。

（長崎大学教育学部 石井 泰 義）

Ⅱ．表 層 地 質

本図幅は、野母半島（長崎半島）の基部に当り、北東部は諫早地峡に、また北西部は西彼杵半島に接続する。野母・西彼杵半島は共に結晶片岩類よりなるが、野母半島においては、とくに緑色片岩の発達が著しい。堆積岩類の大部分は古第三系に属し、西側では高島炭田北部を、また東側では諫早炭田を構成する。

図幅の中央部は火山岩類で占められ、流紋岩・安山岩・玄武岩に属する諸種の岩型が認められる。北部には変朽安山岩（プロピライト）の広い分布地域があり、その中心部に細粒の川平閃緑岩が露出する。本図幅内には沖積層の発達が乏しく、軟弱地盤の問題や洪水災害はきわめて少ない。

1．未固結堆積物

1-1 泥がち堆積 (m)

河川の河口付近の沖積地を構成するのは、主として砂礫質堆積物であるが、表層部には泥が

ち堆積物が重なり、水田化される場合が多い。長崎市中心部の埋立の埋土の下には貝殻を含む泥層が伏在し、出島貝層とよばれている。

1-2 砂がち堆積物 (s)

主として海浜砂として分布するもので、東海岸の東房・飯香ノ浦・北浦・宮摺、西海岸の三重・畝刈・小江などで遠浅の海浜を形成する。

1-3 砂礫堆積物 (sg)

海浜礫に富む礫がち堆積物は、わずかに東部の牧島より突きでた曲崎や津島、および網場に嘴状に発達する。

2. 半固結堆積物

2-1 砂礫および粘土 (段丘堆積層) (t)

長崎市内の浦上川にそった長崎大学文教キャンパスと、中島川にそった長崎県庁や長崎市役所が建つ段丘は、共に安山岩礫を多量に含む段丘礫層により構成される。

3. 固結堆積物

3-1 泥岩を主とする部分 (ms)

諫早層群最下部層である江ノ浦層は、主として泥岩よりなる厚い海成層であり、図幅の北東部に分布する。伊王島の伊王島層の上部や、長与地区の最上部層に当る平木場層は泥岩の卓越した部分が発達する。

3-2 泥岩・砂岩互層および砂質泥岩 (ms, ss)

諫早層群の土師野尾層 (蛸道層) や、矢上層群の赤松層で代表される。主として板状砂岩に泥岩を挟在し互層をなす。長与地区の山口層の砂質泥岩もこれに含めたが、本層よりは貝化石が多産する。

3-3 砂岩を主とする部分 (ss)

高島炭田北部の伊王島、香焼島に広く分布する端島層、沖ノ島層・下部伊王島層は砂岩が卓越する。また諫早炭田の毛屋・切宮・古賀・館の各層も同様で、一括して地質図中に図示した。石炭層を含む端島・下部伊王島・毛屋の各層は、一般に細～中粒の白色砂岩よりなり、糖状砂岩とよばれる特徴をもつ。沖ノ島・切宮層は海緑石を含み、かなり泥質部も混り、貝化石を含有する。

3-4 砂礫および礫岩 (ss, cg)

高島炭田の基底層である香焼層と、伊王島層最下部の出崎礫岩では、礫岩がきわめて卓越する。礫として種々の古期岩類を含むが、結晶片岩礫がとくに多い。基質は石英質で、岩石はきわめて堅硬である。同様な堆積岩は茂木港口の赤崎鼻にも露出する。香焼島中央部や神ノ島では、砂岩、礫岩層中に紫赤色頁岩を挟在する。

4. 火山性岩石

4-1 流紋岩 (Ry)

長与流紋岩で代表され、肉眼的斑晶として石英を含む白色の火山岩である。主な分布地は、長与駅付近・西高田・女ノ都北部である。時津町南部の打坂では古第三紀層を被覆した流紋岩がボーリングで確認されているが、地表では角閃石輝石安山岩におおわれる。

4-2 流紋岩質火山角礫岩 (Rb)

時津町横尾付近に典型的に発達するもので、多量の流紋岩の角礫を含む。時には、基盤岩の片岩類や砂岩礫を混じた部分も見られる。

4-3 無斑晶質安山岩 (彦山型) (Ab₀)

長崎市の彦山頂上部より矢岳にかけて分布する特徴ある安山岩である。本岩は斑晶に乏しいシソ輝石安山岩であり、これまでしばしば玄武岩として識別されたものであるが、比重は2.55であり、普通の玄武岩と比べて小さい値をもつ。

4-4 黒雲母角閃石安山岩 (井樋ノ尾型) (Ab₁)

図幅の北東部の井樋ノ尾岳・普賢岳・船石岳の溶岩円頂丘をつくる安山岩である。斑晶は、隣接する「肥前小浜」図幅の雲仙型のものより小さいが、鉱物組成は互いによく類似する。

4-5 角閃石安山岩 (飯盛溶岩円頂丘型) (Ab₂)

「肥前小浜」図幅内に典型的に発達する本岩にきわめてよく類似したものは、滑石峠の西にそびえるコン岳 (344m) であり、斑晶の少ない灰色の角閃石安山岩よりなる。同質の岩石は帆場岳・天竺山および三重田郷に知られる。

4-6 複輝石安山岩 (小江原安山岩) (Ab₃)

長崎火山岩類の溶岩部を占める岩体であり、斑晶の細かい灰色の安山岩で、板状節理がよく発達する。「大村」図幅の大村安山岩、「肥前小浜」図幅の森山安山岩と同様に、建設用骨材 (バラス) として採石されている。長崎市内の小江原・岩屋山・金比羅山・稲佐山・烽火山などと、多良見町の猪見岳一帯に広く分布する。

4-7 安山岩質凝灰角礫岩および凝灰岩(Tb)

長崎火山岩類の火山砕屑岩の部分占める岩体で、溶岩部と併せて豊肥火山活動の産物とされている。輝石安山岩の岩塊へ角礫を多量にとり込むが、下部のものでは角閃石安山岩もかなり含まれる。所により、いわゆる集塊岩地形をつくり、稲佐山北部や長崎大学病院上の穴弘法の断崖はよく知られた所である。また露出面が侵食により凹凸を生ずるので、長崎地方では俗に“ドンク岩”(蛙の意)とよぶ。基底部にはよく成層した凝灰岩が挟在し、茂木や喜々津では植物化石が産出する。

4-8 変朽安山岩(プロピライト)(Pr)

図幅の北半島の中央に広く東西に延びて分布する。原岩には溶岩と火山角礫岩が認められる。変朽安山岩中の有色鉱物は緑泥石化するため、岩石全体が緑色を帯びる。石基には炭酸塩鉱物が生成されていることが多い。

4-9 玄武岩(Ba)

黒色緻密な火山岩であり、諸所に溶岩流として分布する。北西部の結晶片岩の上を被覆するものにやや広い分布をもつものがある。また帆場岳や城山においては、山頂に残丘として玄武岩の岩体が残存す。行仙岳の黒雲母角閃石安山岩や、日見峠付近の複輝石安山岩に貫入した玄武岩の岩脈も知られているが、幅が小さいため地質図上には図示されていない。

4-10 玄武岩質岩滓(スコリア)(Sc)

玄武岩の溶岩流の基底部には、岩滓(スコリア)に富む火山砕屑岩が発達する場合がある。本図幅内では、畝刈北東部に分布するものが顕著である。

5. 深成岩

5-1 花崗岩(Gr)

本図幅内では花崗岩の露出はきわめて貧弱であり、わずかに茂木港南部と、若菜川河口に分布する。またより小さい露出が唐八景の南斜面にあるが、地質図上では多少誇張して示してある。いずれも結晶片岩に貫入した岩体の末端部が露出したものであろうが、茂木港南部のものは断層活動とも関係があるものと思われる。

5-2 閃緑岩(川平閃緑岩)(Di)

北部の変朽安山岩分布域のほぼ中央に閃緑岩が分布する。本岩は顕晶質、等粒状組織をもつが、造岩鉱物は比較的細粒である。きわめて堅硬な岩石であるが、風化が進んだ所ではマサ状を呈する。

5-3 変斑礫岩 (Gb)

本岩は、野母半島南部に広く分布するが、本図幅内ではわずかに3ヶ所の露出地が認められるのにすぎない。北から滑石団地南西端、皇后島(通称ネズミ島)、茂木港潮見崎であるが、とくに皇后島は全島が本岩で構成される。

5-4 蛇紋岩 (Sp)

蛇紋岩は、西彼杵半島北北部にきわめて広く分布するが、本図幅内では、わずかに三重中学校付近において、結晶片岩中のレンズ状の小岩体として貫入するのにすぎない。

6. 変成岩

6-1 黒色片岩を主とする部分 (Bs)

石墨・白雲母・石英を主成分鉱物とする泥質堆積岩起原の結晶片岩であり、片理の発達が著しい。北東部の西彼杵半島の結晶片岩は、大部分が本岩であり、著しく点紋が発達した部分も含む。しかし、南部の野母半島では、緑色片岩と互層するのが普通である。片理面の傾斜の向きは、北東部では、おおむね東であるが、南部では北に向いている。

6-2 緑色片岩を主とする部分 (Gs)

南部の野母半島において顕著に発達し、黒色片岩と互層する。主要造岩鉱物は、緑泥石・緑簾石である。黒色片岩が片理にそってやすく剥げ易いのに対し、緑色片岩は塊状の岩盤を露出させることが多い。

7. 応用地質

7-1 石炭

伊王島・香焼島は、高島炭田の北部に位置し、かつては海底炭鉱の坑道が海底下深く延びて優秀な原料炭が堀り出されていたが、現在は全く閉山している。

7-2 採石

建設用粗骨材(バラス)としては、本図幅内では主として複輝石安山岩が採石されている。現在の採石業の中心地は小江原であり、5カ所で稼行されている。小江原における安山岩の平均比重は2.744、平均吸水量は1.166%である。また南部の戸町の採石場の一部の安山岩は、比重が2.714、吸水量が0.920%と測定された。彦山型無斑晶質安山岩も採石され、バラスとして出荷される。

滑石峠西方のコン岳の角閃石安山岩は、間知石として採石されている。浦上水源池周辺に分

布するプロピライトも、かつては間知石として採石されたこともあるが、品質が不安定であり風化に弱いため、現在は全く掘られていない。

(長崎大学教育学部 鎌田 泰彦)

(長崎南高校 堀口 承明)

おもな参考文献

- 地質調査所(1965):20万分の1地質図幅「長崎」
- 堀口承明(1963):牧島の地質 長崎大学芸 自然科学研報 第14号,49-54頁
- 鎌田泰彦(1957):長崎県矢上炭田東長崎町地区の古第三系層序-矢上炭田の研究
その1- 同上,第6号,35-45頁.
- 鎌田泰彦・堀口承明・井上昌幸(1973):長崎県千々石灣の底質-とくに泥質
堆積物の分布について 長崎大教育自然科学砂報研第24号,
61-79頁
- 長崎県地学会(1971):長崎県の地学 日曜巡検ガイドブック 1-194頁.
- 大島恒彦(1964):長崎県野母半島の結晶片岩 九州大学理学部研報(地質) 第7巻
第1号, 39-45頁.
- 橘 行一(1957):長崎市北東部喜々津町で見出された茂木植物群を含む湖成層と長崎
火山 (長崎火山周縁の化石湖の研究 1)長崎大学芸 自然科学
研報 第6号, 29-34頁.
- 山崎達雄・松本徃夫, 菰田正俊(1965):諫早炭田の地質(付,九州北西部諸
炭田との関係) 九州大生産研報告 第40号, 7-25頁.

Ⅲ．土 壤

1．山地の土壌

1-1 土壌の概要

長崎の市街を中心とし、南部は結晶片岩、残りは安山岩地帯に大別される。結晶片岩母材の区域には主として黄褐色系の乾性・適潤性褐色森林土、安山岩及び部分的に出現する第三紀層の母材による所では乾性・適潤性褐色土が分布している。赤褐色系の土壌は図面最西北外海町周辺にみられる。いずれも乾性土壌型の比率が高い。

小起伏の多い複雑な地形に人口が密集しており、土地の利用は小規模、かつ乱雑になっている。

1-2 細 説

1-2-1 乾性褐色森林土壌

長崎市近郊の大部分は、この統群に含まれる。植被は貧弱な シイ・ヒサカキ・ネズミモチ等の常緑広葉樹が多いが、部分的にはヒノキの植栽も行なわれている。

1-2-2 乾性褐色森林土壌(黄褐色系)

長崎(野母)半島の山頂・匍行面と第三紀層から成る伊王島・香焼島に分布する。結晶片岩母材の風衝が強い場所が多く、生立する樹木にも歪みがみられる程である。腐植の混入層が薄く生産力も乏しい。

1-2-3 乾性褐色森林土壌(赤褐色系)

外海町に分布する安山岩を母材とし、理化学性は、そう劣ってない。しかし西からの海風が極めて強く影響し、経済林地としての利用は難しい。

1-2-4 褐色森林土壌

安山岩を母材とし、長崎市近郊林地の沢筋に存在する。小さい地形と相俟って小面積づつの分布を示すが、理・化学性には恵まれており生産力は比較的高い。

1-2-5 褐色森林土壌(黄褐色系)

結晶片岩を母材としB～C層が10YRの色調を呈する。
長崎市郊外東八景(305m)以南の谷沿に分布している。
理化学性がよく、風衝から守られた地形では生産力も高い。

1-2-6 褐色森林土壌(赤褐色系)

図幅最西北、外海町南向き斜面に極く小面積分布する。

1-3 山地の土壤と土地利用

乾性褐色森林土は、この図幅での最大面積を占め、その利用は都市近郊林のあり方についての論議を含め大いに注目されるであろう。現在は水源地周辺の水源涵養保安林、土砂流出防止保安林として規制された地域と、小起伏のため、ゴルフ場、宅地等に改変されつつある場所、常緑広葉樹林が部分的に拡大造林されているもの等に分れる。生産力は乏しいので大規模な造林は慎まねばならない。又、所属気候帯として本来の姿である常緑広葉樹林が市民の近くであって保健、景観上での効果を発揮している点は認識すべきであろう。

乾性褐色森林土(黄褐色)から成る八郎岳(590m)付近には「市民の森」が計画され着々と工事も進められている。

母材(結晶片岩)が非常に受蝕に弱いうえ、風衝が強くと生産力が劣るため、植生が破壊された場合復旧が遅れ、山地崩壊等が拡がるおそれがあるので慎重な施業が望まれる。

乾性褐色森林土(赤褐色)、外海町海岸近くの南向き斜面に存するが風衝が強くと林業生産には不向きである。

褐色森林土壌、黄褐色系、赤褐色のものも含め、スギ・ヒノキの植栽に適し、面積は小さいながらよく利用されている。

(長崎県総合農林試験場 松尾俊彦)

2. 丘陵低地の土壤

2-1 土壤の概要

西彼杵半島および長崎半島の基部に当り、南部は戸町岳、悪所岳、八郎岳、城山等の低山からつづく丘陵地から形成され、低地は殆んど市街地として利用され、農耕地としては存在しない。丘陵地の土壤は結晶片岩の風化物を母材とする黄色土壌が分布し、主としてピロ園として利用されている。

東部は井樋ノ尾岳、船石岳、普賢岳、猪見岳、前岳、烽火山、矢岳、等の連山からつらなる丘陵地と、これらに源を発する小河川による低地により形成される。丘陵地の土壤は安山岩の風化物を母材とする黄色土壌が多く、一部赤色土壌が散在し、樹園地および普通畑として利用されている。低地にはブライ土壌、灰色低地土壌、褐色低地土壌が分布している。

西部は御岳、大岳、矢筈岳、岩見岳、稲佐山等からつらなる丘陵地とこれらに源を発する小

河川による低地から形成されている。丘陵地の土壌は安山岩、および結晶片岩の風化物を母材とする黄色土壌で、一部赤色土壌が出現する。低地にはグライ土壌、灰色低地土壌が分布している。

2-2 土壌細説

2-2-1 赤色土壌

下層土の土色が5YR 4/4より赤い土壌で、表土の土性はCL~C、下層土はCである。安山岩、玄武岩の風化物を母材とする残積土壌で長崎市式見、茂木、矢上の丘陵傾斜地に分布する。みかん園、ビワ園および普通畑として利用されている。

2-2-2 黄色土壌

下層土の土色が5YRより黄色味が強い土壌で、土性はL~Cである。結晶片岩、安山岩の風化物を母材とする残積土壌で、分布面積は広く、丘陵斜面に分布し、ビワ園、みかん園、普通畑および一部は水田として利用されている。

2-2-3 褐色低地土壌

下層土の土色は黄褐色の低地土壌で、表土の土性はCL、下層土はLiCである。鉄の斑紋を含む。長崎市、東長崎町の八郎川流域、多良見町、飯盛町の小河川の流域に分布し、水田として利用されている。

2-2-4 細粒灰色低地土壌

下層土の土色は灰色~灰褐色の低地土壌で土性はCLである。鉄の斑紋を多く含む。

長崎市茂木、時津町、長与町の低地に分布し、水田として利用されている。

2-2-5 灰色低地土壌

下層土の土色は灰色~灰褐色の低地土壌で表土の土性はL、下層土はSL~Lである。鉄の斑紋にとむ。

長崎市茂木、東長崎市式見、多良見町の小河川の流域に分布し、水田として利用されている。

2-2-6 粗粒灰色低地土壌

下層土の土色は灰色~灰褐色の低地土壌で、表土の土性はSL~CL、下層土はSとSL~CLで、SL~CLの場合には礫層を有する。鉄の斑紋を含む。長崎市茂木、東長崎市式見および多良見町の小河川の流域に分布し、水田として利用されている。

2-2-7 細粒グライ土壌

作土直下よりグライ層となるものが多く、土性はCLである。外海町、時津町、長与町、多良見町の小河川の流域に分布し水田として利用されている。

2-2-8 粗粒グライ土壌

グライ層が作土直下～地表下40cm附近に出現する土壌で表土の土性はSL～L, 下層土はSである。

多良見町, 長崎市の小河川の流域にわずかに分布し, 水田として利用されている。

(長崎県総合農林試験場 小野末太)

IV 開発関連図

1. 防災図

(1) 地すべり防止区域

地域名		所在地		地域面積 (ha)	家屋数 (戸)	告示年月日	地すべり地の概況 発生年月日その他	所管	
区域名	関係河川名	郡市	町村						
香焼		西彼杵	香焼	9.00	135	36. 5. 17	28年, 30年	建設	
伊王島		西彼杵	伊王島	11.70	27	35. 3. 4	33年	建設	
土井首		長崎市	土井首町	8.90	272	36. 5. 17	29年7月	建設	
茂木		若菜川	長崎市	茂木町	5.08	4	38.10.11		建設
尼ヶ崎			西彼杵	香焼町	6.17	33	48. 9. 5	15年, 47年	建設

資料：県河川砂防課調

(2) 砂防指定地

番号	河川名		所在地	指定関係事項		着工 竣工
	幹川名	溪流名		告示年月日	面積 (ha)	
1	式見川	式見川	長崎市式見町	26. 10. 6	0.13	22年26年
2	中島川	中島川	〃 馬町	31. 12. 11	1.90	31 32
3	〃	〃	〃	32. 8. 12	4.80	31 32
4	多比良川	多比良川	〃 三重	47. 2. 14	5.72	45 47
5	伊木力川	山川内川	西彼杵郡多良見町	47. 3. 19	4.8	47 50
6	喜々津川	井樋ノ尾川	〃	47. 11. 20	8.4	46 48
7	長与川	的場川	〃 長与町	48. 5. 22	4.6	

資料：県河川砂防課調

(3) 急傾斜地崩壊危険区域

番号	指定区域名	所在地	告示年月日	面積	人家
①	多以良	長崎市	46. 2. 25	0.67ha	10戸
②	新組	伊王島町	46. 2. 25	0.4	33
③	県	〃	〃	1.89	18
④	安保地区	香焼町	46. 8. 31	2.11	52
⑤	神島地区	長崎市	47. 2. 18	4.6	130
⑥	龍町地区	〃	47. 4. 28	0.6	61
⑦	小瀬戸	〃	48. 5. 15	9.3	170
⑧	土井首	〃	48. 6. 29	4.5	112
⑨	磯道	〃	〃	3.5	100

資料：県河川砂防課調

2. 開発規制図

(1) 県立公園

公園名	指定年月日	関係市町村	公園面積	利用型式	公園の特色
野母半島県立自然公園	S30.1.0.1.3	3市町計	7,090.0 ha	ピクニック ハイキング フィッシング 海水浴, 宿泊 休養	海岸景観, 丘陵景観地域 (砂浜海岸) シイ二次林)
		・長崎市	5,807.0		
		野母崎町	612.0		
		三和町	671.0		
西彼杵半島県立自然公園	S41.1.1.1 46.5.4 (追加)	6市町計	3,065.5	ピクニック ハイキング キャンプ, フィッシング 海水浴	丘陵景観, 海岸景観地域 (西彼山系) ホマーテ 鍾乳洞 岩石海蝕海岸)
		西海町	644.0		
		大島町	269.0		
		崎戸町	95.0		
		大瀬戸町	881.0		
		・外海町	1,044.0		
		・長崎市	132.5		

資料：県立自然公園調書（県自然保護課）

(注) 1. 面積は図上測定である。

2. ・印は本図葉内関係市町村

(2) 保安林

市町村名	総	数	水 源 かん養林	土砂流出 防備林	土砂崩壊 防備林	防風林	魚つき林	その他
	箇所数	面積						
長崎市	207	988.57	522.74	455.81	—	0.40	9.62	—
諫早市	19	1,254.31	1,022.30	232.01	—	—	—	—
香焼町	—	—	—	—	—	—	—	—
伊王島町	—	—	—	—	—	—	—	—
多良見町	6	21.15	—	20.59	—	—	0.56	—
長与町	8	10.03	—	0.83	—	—	9.20	—
時津町	4	4.92	—	—	—	0.50	0.12	4.30
琴海町	6	57.34	—	56.98	—	—	0.36	—
外海町	7	16.10	—	—	—	0.30	15.80	—
飯盛町	5	15.17	1.26	4.04	—	0.42	—	9.45
計	262	2,367.59	1,546.30	770.26	—	1.62	35.66	13.75

資料：長崎県の林業（県林務課）

(3) 風致地区

名 称	面積	名 称	面積
南山手風致地区	31.2 ha	高 鉾 風 致 地区	721.8 ha
唐八景風致地区	721.8	金比羅風致地区	252.7
茂木風致地区	2.6	滝の観音風致地区	108.0
潮見崎風致地区	22.2	普賢岳風致地区	76.5
魚見風致地区	80.7	東望の浜風致地区	36.8

資料：県都市計画課調

- (注) 1. 上記風致地区は全地域長崎市内である。
2. 現在、改正案を検討中で昭和49年度改正される予定。

(4) 鳥獣保護区

名 称	区 域	指定期間	名 称	区 域	指定期間
県設峰火山 鳥獣保護区	515 ^{ha}	S46.6.1 ~S56.10.31	県設東長崎中学校 愛護林鳥獣保護区	44 ^{ha}	S41.1.1 ~S51.10.31
県設大久保山 鳥獣保護区	406	S46.11.1 ~S51.10.31	県設諏訪公園 鳥獣保護区	10	S41.3.31 ~S51.3.30

資料：長崎県鳥獣保護区等概要図（昭和48年度）

(5) 都市計画区域

区 域 名	区域内市町村名	範 囲	面 積	市 街 化 区 域	市 街 化 調整区域
長 崎	・長 崎 市	行政区域の全域	20,761 ^{ha}	4,723 ^{ha}	16,038 ^{ha}
	・諫 早 市	〃 の一部	8,210	1,385	6,825
	・時 津 町	〃 の全域	2,072	439	1,633
	・長 与 町	〃 の一部	1,336	342	994
	・多 良 見 町	〃 の一部	1,426	252	1,174
	・香 焼 町	〃 の全域	434	434	0
	計			34,239	7,574
大 村	大 村 市	行政区域の一部	3,215	—	—
伊 王 島	・伊 王 島 町	〃 全域	196	—	—
千 々 石	千 々 石 町	〃 一部	3,259	—	—
小 浜	小 浜 町	〃 一部	1,745	—	—

資料：県都市計画課調

(注) ・印は本図葉内関係市町村

(6) 宅地造成規制区域

長崎市宅地造成区域 4,040 ha

1974年3月 印刷発行

大長崎都市圏総合開発地域
土地分類基本調査

長 崎

編集発行 長崎県企画部企画課
長崎市江戸町2-13

印刷 (株)富士 マイクロサービスセンター
熊本市水前寺6丁目46-1